

ACT OUT

—アクト・アウト—

高松市美術館コレクション展

開館／午前9時～午後5時（入室は午後4時30分まで）
金曜日は午後7時まで開館（入室は午後6時30分まで）
月曜日休館
入場料／一般400円/高大生200円/小中生100円（前売りおよび団体20名様以上は2割引）
高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳・療育手帳または
精神障害者保健福祉手帳所持者は無料
第2・第4土曜日は小・中・高生無料
主催／高松市美術館

国民文化祭・かがわ'97
平成9年10月25日⑤～11月3日⑥
交流と創造 光と海と祈り

'97 6

27 FRI
13 SUN



森村泰昌「肖像(ヴァン・ゴッホ)」1985

高松市美術館

高松市紺屋町10-4 ☎0878(23)1711

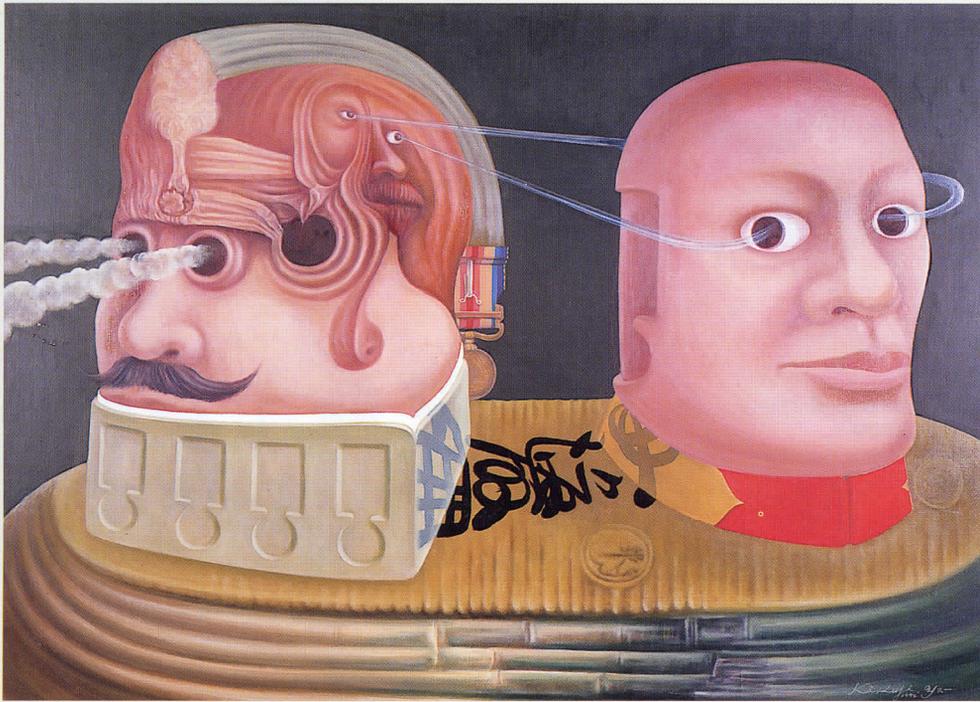
ACT OUT

—アクト・アウト—

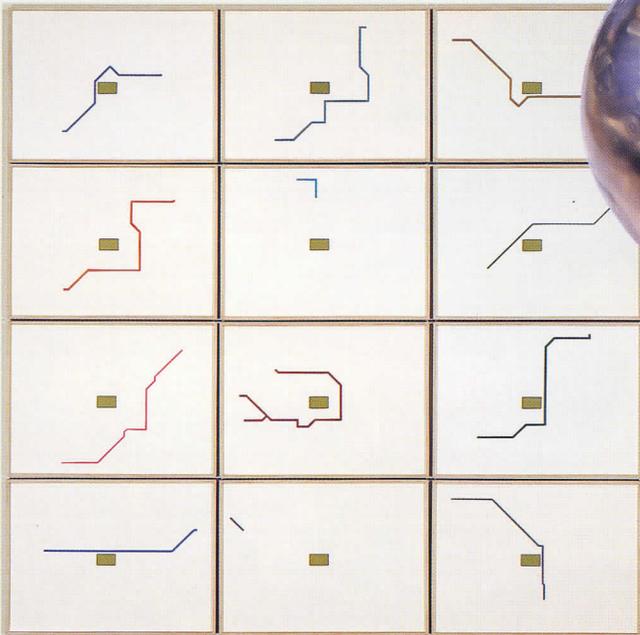
この展覧会では、「アクト・アウト(ACT OUT=行為に表わす)」をキーワードとして、高松市美術館のコレクションの中から第二次大戦後における日本の〈現代美術〉を紹介いたします。

「ACT」ということばには、「行為、行動」という意味とともに、「演じる、ふりをする」という意味合いがあります。ゴッホの肖像画を演じる森村泰昌の写真作品のように、ある行為がそこに定着される際、それが演じられ装われたものであることを強く感じさせる作品が、〈現代美術〉の中に多く見られます。何かを演じるということは見られているという意識が前提となりますが、そこに現われてくるのはある種の受動性です。つまり、活動的(ACTIVE)であることが受動的であることに結びつき、〈個〉の行為であったはずのものが他者の目に従順となる局面が作品のうちに示されるわけです。一方、行為とは基本的に一回限りのものであり、それをくり返し見ることができるのはその痕跡によってでしかありません。写真、ビデオ、影、足跡、といった痕跡で私たちは行為を追認し、実際には見えないものを思い描きます。そのような痕跡を拾い集め誰かが提出(OUT)した時、そこで起こるのは行為そのもののと圧倒的なズレあるいは遅れですが、実はこの〈ズレ〉こそがそれを作品として成立させているものです。なぜなら私たちは、誰もが同じように物事を知覚しているという保証を決して得られないからです。ですからむしろ逆に、痕跡がかかえるズレによってACT(行為)が生み出され、またズレを持つ複数性によって様々なACT(演じること)が可能になっているといえるでしょう。

作品のこのような成り立ちは、もちろん日本に特有のことではありません。しかし、戦後日本の〈現代美術〉に〈行為〉の複数性と受動性が色濃く現われていることもまた否定できません。仮に〈行為〉を欧米の〈ART〉に〈痕跡〉を日本の〈現代美術〉に置き換えてみればどうでしょうか。〈現代美術〉という制度そのものが、いわゆる55年体制が確立する頃から徐々に形を成してきたこと、上述のような特徴とは決して無縁ではないはずです。今回の展示では、このような側面を、年代や素材を異にする様々な作品にそって眺めてみたいと思います。



山下菊二「双頭」1973



柳幸典「トウキョウ・ダイアグラム H6」1994



中西夏之
「コンパクト・オブジェ」1968

次回展覧会のお知らせ

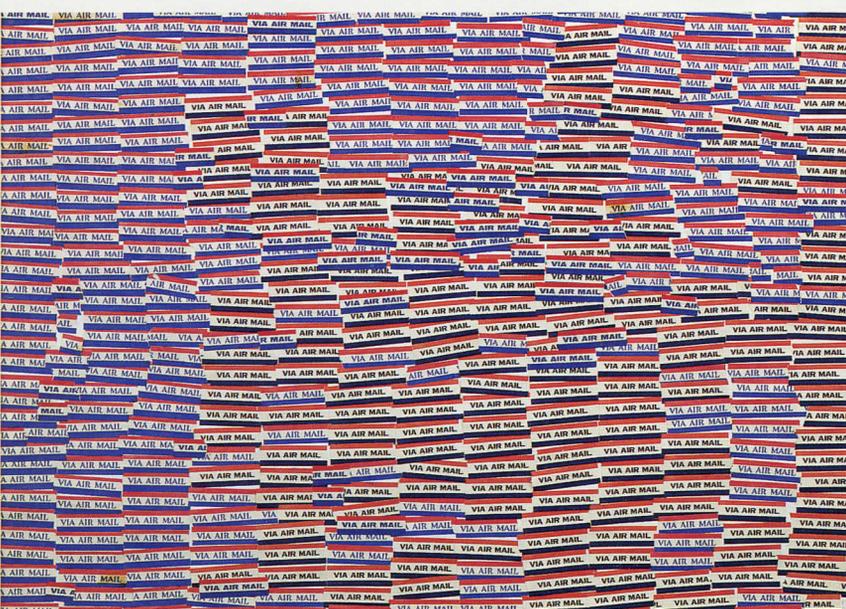
—光と闇—
華麗なるバロック絵画展

8月5日(火)～9月7日(日)

第2期常設展のお知らせ

展示室1 前衛陶芸の世界
—伊藤公象を中心として—
展示室2 モダニズムの金工家たち

6月28日(土)～9月7日(日)



草間彌生「Airmail Accumulation, Untitled」1961



大竹伸朗「網膜 #39 (投げ縄)」1990—91